

## 令和2年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授 洞谷 亜里佐
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市企画政策部企画政策課 (担当者職名・氏名) 企画政策課・藤村 勝之
4 事業活動報告	<p>① 10月9日(水) 上越市企画政策課係長藤村勝之氏の講義を行なった。「上越市の歴史と町家の活用について」対象; 学生・教員 今年は町家サロンの教育普及は実現できなかった。</p> <p>② 美術館との鑑賞教育の連携を行なった。 瞽女ミュージアム高田、小林古径記念美術館</p> <p>③ 地域人材(講師)や資源の活用を目的とした、地域の伝統文化を見直すワークショップを企画した。(はじめに大学生が講師より活動の基本内容と指導者としての講義を受ける。次に学生は、アシスタントとして教育活動に参加する。)</p> <p>・11月23日(月) 山崎宏先生の講義を行なった。「日本美術文化論2 透価値」昨年度に引き続き日本家屋の生活に息づく伝統文化について zoom で講義を受ける。 参加者: 学生 10名 教員 2名 一般 1名</p> <p>・12月2日(水) 温泉ソムリエ遠間和広氏による赤倉温泉地域の活性化と温泉の効能について講義を受ける。 参加者: 学生 10名 教員 2名 一般 3名</p> <p>・12月5日(土) 染色職人宇賀田正臣氏による「草木染め」のワークショップを行なった。 参加者: 午前 学生 11名、午後 一般市民(親子) 14名</p>
5 本事業で得られた成果	<p>地域社会と学校教育を融合させたものづくり教育を広く提示する事ができた。</p> <p>① 日本家屋の特徴を学ぶ事で町家の暮らしから感じる身近な日本文化に気づくことができた。</p> <p>② この事業に本学学生を積極的に登用することで、文化を通して地域の方々との交流が深まり、「地域の自然と文化、雁木町家と物づくり」についての見識を高め、教育者としての資質を向上させることができた。</p> <p>日本の伝統文化理解教育の意義を明確化することにより国際的な意識が高まった。留学生にとっては日本の文化や高田の地域性について認識することができた。また、母国の文化との比較分析を積極的に試みる機会になった。</p>
6 その他 (成果物等の名称)	

令和2年12月5日（土） ワークショップ「草木染めを体験しよう」 作業風景

【午前】 学生を対象としたワークショップの様子



【午後】一般市民を対象としたワークショップの様子

